

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 さくら会
施設名	森田さくらこども園
報告者(役職)	伊藤 仁美(園長)
住所・連絡先	福井県福井市上野本町 4 丁目 2408
	☎ 0776-56-1193 e-mail morita_sakura_ECEC@hyper.ocn.ne.jp

○タイトル(保育計画)

みんな一緒にこころと体を元気にしよう！

○主な助成備品

室内用・屋外用鉄棒、玉入れ台と玉、トンネル、マット、バランスランド等

1. 保育計画策定の目的

福井市森田地区は、福井県最大の河川九頭竜川の沿岸にあり、古来福井丸岡間の交通の要所宿場町として栄え、環境の良さから福井市の北部地区としてサラリーマンの多いベッドタウンになっており人口が急増している。その森田地区に 2022 年 4 月新設された当園は初年度 120 名在園。ところが、園内には大型遊具をはじめ備品や遊具が少ないだけではない、近隣には新興住宅街のため、公園・店舗・商業施設・公共機関等の数も少なく子ども達にとっては簡素で寂しい環境である。

さて、今乳幼児期がクローズアップされる中、「幼児期は運動機能が急速に発達し、体の基本的な動きを身に付けやすい時期であることから、多様な運動刺激を与えて、体内に様々な神経回路を複雑に張り巡らせていくことが大切である。それらが発達することにより、普段の生活で必要な動きをはじめ、とっさの時に身を守る動きや将来的にスポーツに結び付く動きなど多様な動きを身に付けやすくすることができる。そのためには、幼児が自発的に様々な遊びを体験し、幅広い動きを獲得できるようにする必要がある。」(平成 24 年 3 月文部科学省 幼児期運動指針策定委員会)としているように乳幼児期の体力作りは特に大切と考える。体を動かす遊びには、多様な動きが含まれ、例えば、鬼遊びをすると、「歩く、走る、くぐる、よける」などの動きを、夢中になって遊んでいる。そんな環境を整えるのが園の役割と捉え、備品等の選定を行った。選定に際しては、発達の特性に応じて行うことが大切で、幼児は、一般的に、その時期に発達していく身体の諸機能をいっぱいに使って動かそうとする。そのため、0 歳児から 5 歳児までの発達の特性に応じた遊びをすることは、その機能を無理なく十分に使うことと考え、どの年齢でも使用できることを考えた。

2. 具体的な実施内容

① バランスランドフルセット

子ども達のバランス感覚と調整力を育む目的で選定。平均台やマットなどの機能はもちろん楽しく体を動かすことができるように、傾斜付きもセットされている。素材は硬質ウレタンモールドで、外皮はエステルターポリタン(防災)底面には滑り止めシートが施されており、安全である。乳幼児が1人、あるいは2人で持てる重さと大きさであり、幅広い年齢層が楽しめる。また、フルセットなので、数量と種類が豊富であり、コンビネーションを楽しむことができる。

実施内容

このフルセットをホールに常時設置してあり、いつでもどこでも取り出せるようにしておいたため、どの年齢でも手軽に活用した。サーキットを作ってみたり、個別に使って車や見立て遊びに使用し、子どもらしい発想で遊ぶ姿が随所に見られた。発表会での台としてや、保育参観に保護者に披露し、活躍した。大きさも重量も手軽であり、保育室に持ち込んで遊ばせる保育者もいた。



② 屋内用鉄棒 2 台

10 cm ずつ 3 段階での調整が可能な幼児用の鉄棒。保育者が一人で楽々折りたたむことができる。

実施内容

この鉄棒 2 台をホールに常時設置していたので、乳児はもちろん幼児もいつでも触ったり回ってみたり自分ができることを日々いつでも工夫して遊んでいた。また、初年度の 1 才児の発表会では、一場面に登場してぐるりと回るところを見ていただいたり、初年度最後の「体力発表会」では 0 歳児が全園児の前でぶら下がりを披露した。



③ 玉入れ台 2 台

高さの低い(110～150 cm)玉入れ台なので、玉を上 to 投げる力のない幼児でも楽しめる。

実施内容

運動会では、3 歳児からこの玉入れを競技内容に取り入れ、5 歳児では高くして使用し、年齢に合わせた使い方ができた。



④紅白玉

丈夫な室内用のボールで直径7cmあり、外皮はウレタンシートでできているため、丈夫で乳児であってもつかみやすい。

実施内容

ボールを転がしたり投げたりする時、このつかみやすい紅白玉が手軽さゆえに、ホールで大活躍。1年を通してどの年齢でも使用することができた。



⑤メッシュトンネル

トンネルの生地がメッシュなので、通気性がよく、乳幼児が不安にならずトンネルくぐりができる。

実施内容

運動会では、使用している乳幼児は安心してくぐり抜け、保育者や保護者も心落ち着いて、トンネル内をくぐっている乳幼児を見ることができた。

また、トンネルの端に付いている紐を結んだり付けなおしたりできるので、子ども達自身が話し合いによる試行錯誤ができ、主体的な活動を促す遊具として屋外屋内を問わず、使用することができた。



⑥キッズマット

冬は床からの冷気を遮断し、夏は熱気を通さずに一年通して快適に過ごせる。厚さ1.2cm高密度PVC素材で、騒音緩和や優れた回復力と踏んだ後も、もちもちとした心地よい感触である。両面仕様なので場所の雰囲気に合わせて使用でき、食べこぼしや水拭き掃除も楽々で清潔に保つことができる。手ごろな大きさで、乳児室の室内はもちろんホールでの運動時のマットとして最適である。

実施内容

このキッズマットを1歳児・2歳児・3歳児の各保育室に常時設置しておいた。例えばこのキッズマットの上に太鼓橋を置いておくことで、保育者は安心して見ていることができた。このようにクッション機能は勿論、布張りではないのでアルコール消毒も小まめにできたし、水道水で洗い流すこともできた。



⑦屋外用アクティブ鉄棒

支柱の素材はアルミ（アルマイト加工）、シャフトはステンレスで、屋外用として雨や雪にも耐え、安定感がある。

実施内容

園庭に常時設置してあり、朝の登園時はもちろん、お迎えがくる降園時までずっと遊んでいることができた。時には回ったり、縄跳びを巻いて遊んだり、各々が工夫して遊ぶ姿が見られた。冬季には降り積もった雪の中でも遊ぶ姿が見られた。



3. その成果と評価

乳幼児期の運動は、体に過剰な負担がなく遊びを中心として楽しく展開されることが望ましい。自発的に体を動かしたくなるように、購入した遊具等を直ぐに取り出せるような環境設定を心掛けてきた。保育者にとっても、子ども達にとっても安全安心の環境づくりは大切と考える。

この一年で発達が促進され、自然に動きを獲得することができ、けがの予防にもつながった。また、幼児の身体諸機能を十分に動かし活動意欲を満足させることは、幼児の有能感を育むことにもなり、体を使った遊びに意欲的に取り組むことにも結び付いた。様々な遊具で楽しく遊んだことにより、体に過剰な負担が生じることのない遊びを中心に展開され、発達の特性に応じた遊びをそれぞれ自発的に体を動かし、結果として無理なく基本的な動きを身に付けることになった。

保育者が考えて環境を整えることも大切ではあるが、多種多様な遊具を使用し、そこから子どもも保育者もやる気が起きることを改めて感じ、助成の有難さを痛感するとともに感謝の気持ちでいっぱいである。

4. 今後の課題と展望

乳幼児期は発達が著しいので、一人ひとりの発達に応じた援助をすること。友達と一緒に遊ぶ中で、自分から体を動かしたくなる環境設定を工夫すること。保育者は一人ひとりの動きや気持ちに寄り添いながら、安全を確保するとともに固定遊具や用具等の安全な使い方や、周辺の状況に気付かせるなど、安全に対する配慮をすることなどが課題である。

今後は体を動かすことの重要性を家庭や地域にも情報を発信し、共に育てる姿勢をもてるようにすることを目指している。

以上